

回鶻文法華經普門品の斷片

附、回鶻文の天地八陽神呪經補遺

羽 田 亨

從來回鶻文法華經普門品の學界に紹介せられたるもの二種あり、一は一九一〇年獨逸の Müller 氏が *Dignicos II* に於て譯出せるものにして、二は翌一九一一 Radloff 氏が *Kuan-si-in Pusar* と題して聖彼得堡より出版せるものなり、前者は三十七行の斷片に過ぎざれども、後者は殆んど其の全部を存し、僅かに其の四、五行を缺くのみ、Müller 氏の譯出せるものは何れの地より得たるものなるかは、今知るを得ざれども、思ふに新疆吐魯番附近よりせるものなるべく、Radloff 氏のは Djakov 氏が吐魯番に於て獲たる卷子にして、長さ二百八十五センチメートル、巾二十七センチメートルより成れり。今茲に譯出せる斷片一葉も亦た吐魯番に於て橋氏が獲得せるものにして、表裏合して僅かに四十三行を存し、然も紙面の上部に於ては、共に二行許りを缺けるものなること、原文と對照すれば明らかなり。勿論此の四十三行は Radloff 氏の *Kuan-si-in Pusar* 中に含まるゝ部分なれども、然も兩者は全く別譯にして、行文譯語共に相合せず、漢文より翻譯したるものなることは兩者相同じきも、此の斷片のは彼に比して遙かに原文に忠實なる譯文なり。

斷片の巾、六寸四分。長さ、一尺二寸三分。上方圓形の空間の中央に存する○は、綴糸を通したる穴なり。

[A]

- | | |
|---|--------|
| 1. ol ängäk..... | 即得解脫、 |
| 其ノ 苦シミ | |
| 2. yana y(ä)mä birök bu [üč ming] | 若三千 |
| 又 更ニ 若シ 此ノ 三 千 | |
| 3. uluy ming yi[r] | 大千國 |
| 大 千 世界(土) | |
| 4. suv ičintä | 土。 |
| 水)ノ 中ニ | |
| 5. tolu yaqi yavlaq ärip | 滿中怨賊。 |
| 充滿セル 盜賊 惡漢 アリテ | |
| 6. anta yana kim ärsär bir | 有一 |
| ソコニ 又 (...人 アラバ) 一 | |
| 7. satiqči-lar,, uluqi sartavaqi | 商主。 |
| 商 團ノ 主長 商主(梵 sārthavāha) | |
| 8. xamaq ⁽¹⁾ sart satiq-či-lariq | 將諸商人。 |
| 諸 (梵 sārtha) 商 人 等ヲ | |
| 9. utuzup aqir satiq-liq äd | 賢持重 |
| 導キテ 貴重ナル 商 フベキ 財 | |
| 10. t(a)var ärdini yinčü-läriq kötürüp | 寶。 |
| 貨 寶 珠 等ヲ 携サヘ | |
| 11. öng(?) ⁽²⁾ kördüg(?) yir-läriq ärtär | 經過嶮路。 |
| 路ヲ 過グルトキ | |
| 12. angra(?) (angaru?) anta birök bir kiši | 其中一人。 |
| ソコニ 若シ 一 人 | |
| 13. inčä tip qiqırsar,, y-a qama[y] | 作是唱言。諸 |
| 此ノ 如ク 曰セテ 高唱セバ 嗚呼 諸 | |
| 14. tüzün-lär oqlanı näng | 善男子。 |
| 善 男子ヨ 何等 | |
| 15. [s]iz-lär ämti munta qorqmang(?)- | 勿得恐。 |
| 汝 等 今 此ニ於テ 恐ル、勿レ | |
| 16. lar aimanmanglar,, siz-[lar](?) | 怖。汝等 |
| 驚ムル勿レ 汝 等 | |
| 17. ⁽³⁾ birgäru ⁽⁴⁾ bir uçluq | 應當一 |
| 一緒ニ 一ノ 極メテ | |
| 18. kirtkünč köngül-in .. | 心 |
| 信 心ヲ以テ | |
| 19. ⁽⁵⁾ [körkä]li ärklig xuanš[i-im] | 稱觀世音 |
| 觀ル カアル 觀 世 音 | |
| 20. bodis(a)tv-niing [atni]? | 菩薩名號。 |
| 菩 薩 ノ [名ヲ] | |

21. atang-lar,, nâ |
 稱名セヨ 如何ナル

[B]

- | | |
|---|--------|
| 1.siz-lâr,,
汝等 | |
| 2. ötrü ol ⁽¹⁾ sart-lar
技ニ於テ 其ノ 商人
(梵 sārtha)等 | 衆商人 |
| 3. äšidip qamaq
聞キテ 皆 | 聞。 |
| 4. ⁽³⁾ [bir]gärü(?) xatiry ünin
一緒ニ 強キ 聲ニテ | 俱發聲音。 |
| 5. yökünürbiz körkâli
南無(跪拜スル) 觀ル | 南無 |
| 6. ärklig quanši-im bodis(a)tv ⁽⁴⁾ xutînga
カアル 觀世音 菩薩 (運命ニ) | 觀世音菩薩。 |
| 7. tip munčolayu öküš qurla bodis(a)tv
ト曰ヒテ 斯ク 屢々(多 回) 菩薩ノ | 稱其 |
| 8. atin atasar-lar,, ol ada-tin
名ヲ 稱名セバ ソノ 危害ヨリ | 名故即 |
| 9. ämgäksizin uzar-lar qutrulur-
苦ミ無ク 逃レ 救ハルベシ | 得解脱。 |
| 10. lar,, ai alqinäsiz köküz bodis(a)tv
嗚呼 無盡 意 菩薩ヨ | 無盡意。 |
| 11. bu körkâli ärklig xuanši-im
此ノ 觀ル カアル 觀世音 | 觀世音 |
| 12. bodis(a)tv maqas(a)tv-nîng čoqi yalini
菩薩 摩訶薩 ノ 威 光 | 菩薩摩訶薩威 |
| 13.k(ä)nlig(?) ädrämliq küci küšüni
廣大ニシテ 功德アル 力 勢ハ | 神之力。 |
| 14.uluq türliq mungadinčiq-i
種 驚嘆スベキモノ | 巍巍 |
| 15. [qasinä]iq-ï(?) inä(?) muntay(?) titir,, taqi
巍巍タルモノ(?) ? 此ノ如シ (ト云フ) 又 | 如是。 |
| 16. [yämä alqinč]siz köküz bodis(a)tv qayu
更ニ 無盡 意 菩薩ヨ 衆 | 若有衆 |
| 17.k birök ⁽⁵⁾ amranmaq
若シ 淫 | 生多於淫 |

- | | |
|--|---------|
| 18. [biligi kücl]üg(?) ärsär, inöip örük
欲 強カ ラベ ソノ時 常ニ | 敬。 |
| 19.niny köngül-in bu
ノ 心ヲ以テ 此ノ | 常念恭敬 |
| 20. [bodis(a)tv-ning at]ni(?) atasar-lar ötrü
[菩薩ノ名]ヲ 稱名セバ 則チ | 觀世音菩薩。便 |
| 21.amranmay bilig-lärdä(?)
徑 欲 ヨリ | 得離欲 |
| 22.uqsaqni i | |

註 解

(1) Sart は隊商、商人の意にして Kudatuk bilik の中にも sartañi 即ち「サルトの頭」なる語を商主の意味に用いたり、此の語が梵語の sārtha より來りたるべきは論なかるべければ、彼の古代より中亞に住みて商業に従事し、今も尙ほ其の數少からざる Sart 族なる名は、其の商業に従事せるよりして得たる名にして、まさに梵語の sārtha ならざるかを疑がひ、曾て一二の先輩に質したることもありしが、偶々 Radloff 氏の Kuan-ši-im Pusar を精讀するに及びて、同氏が sarpau なる語(此の斷片には(A)第七行に sartvaqi と書けり、梵語の sārthava を寫せるなり)に註して、既にこれと同一なる考を、斷定的の口調にて公やかにせられたるを知れり、余に梵語の知識なければ之が當否を判斷するに苦しむと雖、然も余にとりては頗ぶる會心の記事なれば、今茲に其の全文を轉載して、讀者の批判を乞はんとす。

sarpau. Es ist dies das Sanskritwort sārthava (sārthabāha) "der Karavanen-führer", es steht appositional zu satiqēi uluqi "der Kaufmannskälteste". In derselben Bedeutung wendet das Kudatuk Bilik den sartañi "Anführer der Sarte" an. Dies deutet darauf hin, dass der Volksname "Sart" ein indisches Wort ist und zuerst die Bedeutung "Kaufleute" hatte. "Sart" heisst jetzt die türkisch sprechende Stadtbevölkerung Mittelasiens, im Gegensatz zu den Dorfleuten den Özbek. Jene sind ursprünglich nicht Türken, sondern, wie man aus ihren Gesichtszügen schon ersehen kann, zum grössten Theil iranischer Abkunft. (Kuan-ši-im Pusar. S. 37. Anm. 38.)

(2) öng(?) kördüg(?) の二語は漢文と對比すれば、險路の「險」に相當する語なれども、何故に此等の二語を以て「險」の意を譯したるべきか、兩者の何れにも「險」の意あるを知らず。

(3) gārū は常に方向を示す時に用いらるゝ副詞の語尾にして、Müller 氏は birgārū を nach einer Stelle zu と譯し (Uigurica, 56.) たり、されどまた Pelliot 氏が之

を en un seul と譯したるが如く(通報 Mai 1914, p. 266.)「一つに」とも譯し得べきなり、此處にては「汝等一つとなりて」の意と解くべきが如し。

(4) uéluq は ué 即ち先端、頂きなる語を形容詞となしたるものなるべく、「極限の」、「極端なる」の意なるべし。

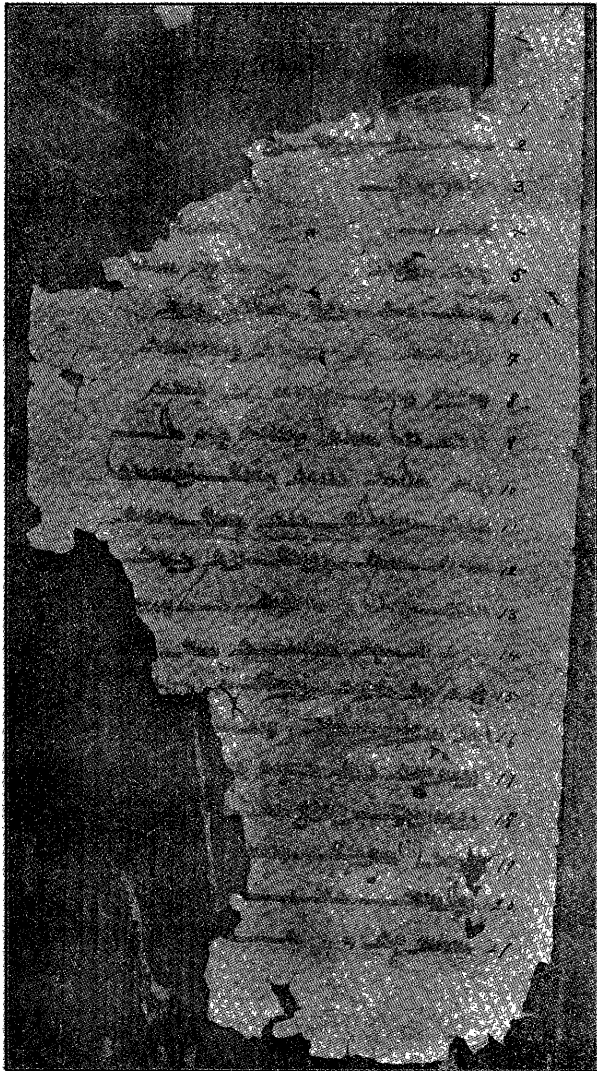
(5) körkäli ärklig は「見るべき力を持てる」の意なれば、觀世音の「觀」の意を譯して、其の漢名の上に冠せしめたるに過ぎざるべし。

(6) xut は「幸福」、「幸運」の義にて、從がつて其の幸福を得たる状態にあるもの、位置にあるものを示す場合に用いたり、假へば「成佛」といへるを譯して burqan xutın bolur 即ち「佛の幸福を得」といふが如し(八陽經二八六行、二六一行等参照)此處にても「觀世音菩薩の位置に」の意なり。

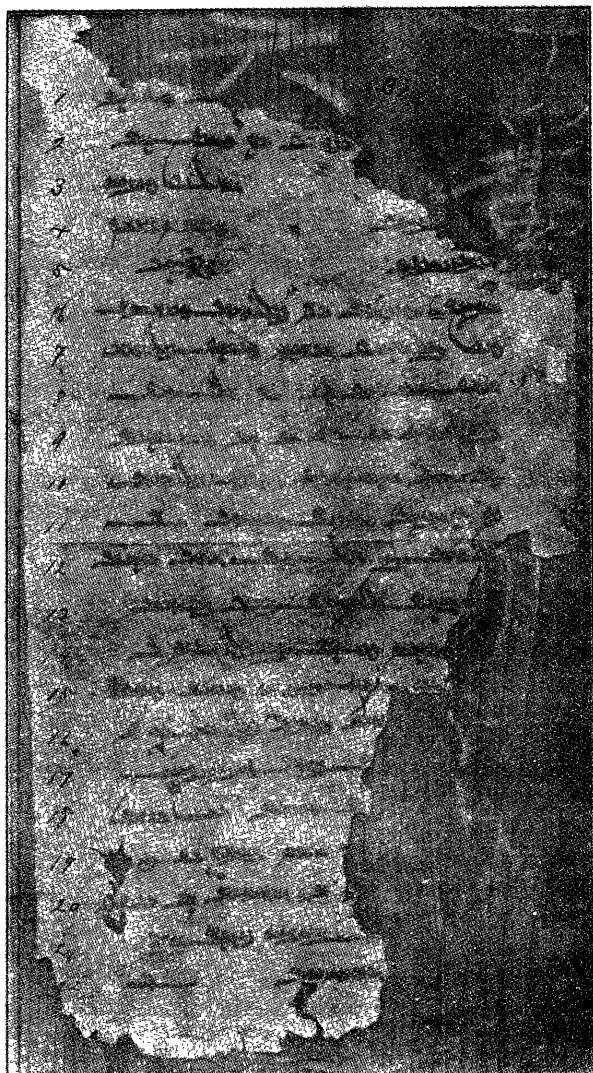
(7) qasınçiq は試みに補ひたれども其の當否を知らず、只だ iq なる語尾の文字が見え、而して Radloff 氏の本には此の語が存するを以て、かりに此れを補ひたるのみ、然も果して此の語なりとするも、Radloff 氏の記せるが如く(Kuan-si-im Pusar 38) 全く其の語義を解する能はず、氏は氏の本に ulug 即ち「大」の語と synonym に用ゐたれば、これも同義なるべしと推したるに過ぎず、余もまた其の原義を知るを得ず、かりに漢文に見ゆる「巍巍」なる文字を對せしめたり。

(8) amranmaq は屢々「愛する」の意に用いらるゝ語なり、こゝには其の義より「淫」なる語を寫したるものなり。

回鶻文法華經普門品斷片(表面)



回鶻文法華經普門品の断片



回鶻文の天地八陽神呪經補遺

余は本誌前號及び前々號に於て、回鶻文八陽神呪經を譯出せしが其の際此の經の卷首の部は缺佚して存在せざりしなり、然るに其の後露西亞の Radloff 博士は、余が譯載せしものを一見して、同國學士院所藏の回鶻文佛典中に、其の卷首の十五行及び余が出せし分の第十八行より第七十二行に亘る部分の存せるを知り、また伯林に存せる版本の回鶻文佛典の寫眞にして、氏の手許に存せるもの、中にも、此の經の斷片の存せるものあるを見て、此等の寫眞を一括して余に送致せられたりしが、余もまた其の後大谷氏所藏の經典中に、此の經の初めの部を補ふべき二十一行の斷片の存せるを見出したるき。されば卷首の缺佚せる部分は今や此等の兩者によりて、ほゞ之を全ふするを得、其の他紙面の汚損、若しくは誤寫等によりて、先きに解し能はざりしものも新たに讀解するを得るに至りたる所少からず、よりて更に茲に補遺を附して、前きに出せし所を補はんとす。

尙ほ附記すべきは此の經の種類なり、本經はさきに述べたるが如く元來僞經なるにも係はらず、廣く回鶻族の間に行はれたるものと見え、大谷氏所藏の中にも、堀氏の得たるものと、橘氏の得たるものとの二種あり、露西亞に存するものも Odenburg 氏の得たるもの (ラドロフ氏の私信によれば、此の種類に屬するものは、氏が既に二十年以前に得たる所にして、回鶻佛典として氏が譯出せし最初のものなりといふ譯文は同國學士院報告中の *Digunische Sprach*

dentatator 中の第五十八及び第九十九に見え、前者は余が譯出せしもの、第二百三十行―二百三十九行、第二百四十五行―二百四十八行、第二百七十七行―二百八十七行に相當し、後者は其の第二百六十行―二百七十九行に相當す、即ち此の兩斷片もまた二種の寫本にして同一本の斷片には非ず) Krotkov 氏の得たるもの (Khan-shim Pusar. Boilage II.) 及び未だ出版せられずして新たに余に送致せられたるもの(此の種類のものは何人の獲たるものなるか明らかならず)等數種あり、更にまた伯林には繪畫を挿入せる版本あること前述の如ければ、少くとも今六七種の異本を數少き回鶻遺文の中より求め得たるものにして、以て此の經流の勢の一斑を伺ふに足るべし、而して今此等の諸斷片を合して足らざるを補ひ、遂に殆んど足本として之を見るを得るに至りしについては、吾人は深くラドロフ博士の好意を謝せざる可らず。

[A] 露西亞學士院所藏八陽神呪經卷首

回鹘文の天地八陽神呪經補遺

第五卷

(三〇四)

- | | |
|--|--|
| <p>1. namo but,, namo d(a)rm,, namo sang
南無 佛 南無 法 南無 僧</p> <p>2. t(ä)ngri t(ä)ngrisi burxan y(a)rliqamış
(天 中ノ天) 佛ノ 説キタル
t(ä)ngri yirli-tin säkiz türükün yarumış
天 地ヨリ 八 種ニ 輝キタル</p> <p>3. yaltrimış iduq dar a)ni.....atl(i)y
(輝キタル) 神 呪ト名付ケタル
sudur nom bitig bir tägzinč
(梵 sütra) 經 一 卷</p> <p>4. ančulayu ärür mäning äsüdmišim,, y(ä)mä
如是 (アリ) 我(ノ) 聽ケリ(シコトハ) 又
bir ödü(n t(ä)ngri t(ä)ngrisi burxan vaisali
一 時 (天 中ノ天) 佛 毘舍離</p> <p>5. atl(i)y nomluy törülüg baliq-da king aliyy
ト呼ブ 名高キ 法アル 町ニ於ル 廣 潤ナル
y(irdä on]tum sängarqi burxan-lar
場所ニ於テ 十 方 諸佛ノ</p> <p>6. uluštın kälmiş ärüs öküş bedis(a)vt-[lar]
國ヨリ 來リシ 多クノ 諸菩薩
t(ä)ngri-[lar] türüg quvraqi birlä
諸天 諸 僧等(群衆)ト共ニ</p> <p>7. y(a)rliqayur ärti,, ol ödün tidıqsız ho[dis
語リ タリキ 其ノ 時 無礙 善
(a)vt] quvray arasinta ärür ärti ötrü
薩 衆 中ニ 在リキ 時ニ</p> <p>8. orıntan turup tizin cökidip ilkin qa[vsurup
座ヨリ 立チ 膝ヲ 跪キ 手ヲ 合セテ
t(ä)ngri t(ä)ngrisi burxan-qa inčä tip
(天 中ノ天) 佛 ニ カク 日ヒテ</p> <p>9. ötüg ötünti,, t(ä)ngrim bu čambudivip
請(テ) 願セリ 世尊ヨ 此ノ 閻浮提ト
atl(i)y yirtinčüdägi qamay tınl(i)y-lar
名付ケタル 世界ニ於テ 衆 生等ハ
bir ikinti-
選ヒニ(一ガニ</p> <p>10. kä turqaru 'ang'ilki sa
ニ) 常ニ 第一ガ</p> | <p>佛說天地八陽</p> <p>神呪經。</p> <p>如是我聞。一時
佛在毘耶達摩處。</p> <p>寥廓宅中。十方
相隨</p> <p>四衆圍繞。</p> <p>爾時無礙菩薩
在大衆中。</p> <p>即從位座起而白
佛言。</p> <p>世尊。此閻浮提
衆生。遞</p> <p>代。相生無始已來。</p> |
|--|--|

- 11. ulay sabıy üzülmáz t(ä)ngrim]

連 續 斷 =ズ 世尊ヨ
- 12. lár öküs t(ä)ngrim,, üç

多シ 世尊ヨ 三
- 13. öküs t(ä)ngrim,, y(ä)mä č(a)xsap[utluy]

多シ 世尊ヨ 又 持戒者
- 14. qatıylanur tınl[i]y-lar az

精進スル 衆生 少シ
- 15. yaşayur tınl(i)y-lar az,,

長壽スル 衆生 少シ

相續不斷。有識者少。無識者多。念佛者少。求神者多。持戒者少。破戒者多。精進者少。懈怠者多。智慧者少。愚痴者多。長壽者少。.....

[B] 大谷氏所藏斷片

- 1. t(ä)ngri(?)

天
- 2. burxan-lar yir (?)

佛 土
- 3. ları quvrayı bi[r]lä]

群衆ト 共ニ
- 4. turup tizin söküdüp älkin qav[şurup]

起テ 膝ヲ 跪キ 手ヲ 合セ
- 5. tip(?) ötüg ötünti bu çambudıvıp atl(i)y

日ヒテ 請(テ) 願セリ 此ノ 閻浮提ト 名付ケタル
- 6. ikintikä turqaru 'äng'ilki

互ヒニ 常ニ 第一ノモノガ
- 7. ? ulaq sabıq üzülmáz t(ä)ngrim

連 續 斷 =ズ 世尊ヨ
- 8. az biligsiz-lár öküs t(ä)ngrim,, üç(?)

少シ 無識者 多シ 世尊ヨ 三
- 9. č(a)xsaputl(u)y az t(ä)ngrim,, ädgügä

持戒者 少シ 世尊ヨ 善事ニ
- qataqlanur [tınli]y-lar az

精進スル 衆生等 少ク
- 10. tavrancar ärmäkü tınliy-lar öküs t(ä)ngrim,,

行 無キ 衆生等 多シ 世尊ヨ
- [uzun] yaşar tınliylar az öt

長 生スル 衆生 少ク 時

十方相隨。四衆圍繞爾時無礙菩薩。在大衆中。即從座起。而白佛言。世尊此閻浮提衆生。遞代相生。無始已來相續不斷。有識者少無識者多。念佛者少。求神者多。持戒者少。破戒者多。精進者少。懈怠者多。智慧者少。愚痴者多。長壽者少。

11. sūz ölür tñliq'ar öküs t(ä)ngrim,,
ナラズシテ 死スル 衆生 多シ 世尊ヨ
 ...king köküz-lüg tñliq'
? 意ノ 衆生
12. lar az puşi köngülüg tñliylar n[z]
少ク 布施ノ 心アル 衆生 少シ
 [b]ariml(i)γ tñl i γ(lar azl)
富貴ナル 衆生 少ク
13. yoq eqnai tñliqlar öküs t(ä)ngrim
貧 窮ナル 衆生 多シ 世尊ヨ
 s:tñliq[lar]
衆生
14. xat(n)q..... [tñli]qlar ök[üş]
剛強ナル(?) 衆生 多ク
15. t(ä)ngrim tükäl bilir ?
世尊ヨ 余ク 知ル
16. [ök]üş t(ä)ngrim,, kirt[ü] ?
多シ 世尊ヨ 眞實ナル
17. [tñliq]lar öküs t(ä)ngrim,, ani ücün bu
衆生 多シ 世尊ヨ 此レ 故ニ 此ノ
18.zün ücün közüür azunta
=ヨリテ 現 世ニ於テ
19. baliy sayu kim qari başlari bar ärs[är]
町ニ 巴ベテ 老 長等 アル アラバ
20. kötürür ärtüngü ämgäk [ämgänür]
擧ゲ 甚ダ 苦(ナ) 憊ス
21. k(ä)ntününg ülüksüzün ücün
自カラノ 不幸ニ ヨリテ

短命者多。禪定者少。
 散亂者多。

富貴者少。

貧賤者多。柔軟者少。

剛强者多。布施者少。
 貪慳者多。

信實者少。虛妄者多。

致使世俗淺薄。

官法荼毒。賦役煩重。

百姓窮苦。

露西亞及び伯林に存する異本によりて前號及び前々號の翻譯を補正し得べき重なるものは

- 第十八行の ...altun は saltun にして saltun qäy:äi 即ち「左の行は」なり。
 第二十五行の初めの欠文は bolup ädgü の二語にして、「此の如き人身を得て善行を爲さず」なり。
 第三十行の初めの缺けたるは tsui 即ち漢語の「罪」の音譯なり。
 第三十一行の欠文は qutlar vaxsiklar iyin turqaru 即ち「善神が願に従て常に」なり、而して此處の qutlar は善神に對する尊稱にして神様の様に相當す。

第三十二行の缺文は yaši uzun bolur にして、「壽命長くなり」なり。

第三十三行のun は anēa にして、「此の如き」なり。

第三十五行のbitisar oqısar は oqısar oqıtsar 即ち「讀まば、讀ましめばの誤寫」にして、かくて初めて前の「書かば、書かしめば」と照應するを得。

第四十行の ögz.....lar 以下は ongz(14) yilbik yäklär xuzqun qopurqa da ulatı yavlaq iru bälgülig xorqıneçy ünltıy quş-lar tükäl tütükük と見ゆ、ulatı より前の部は今明らか
に解する能ははざれど其の後の部は「及び悪き姿、恐ろしき聲の鳥及び、あらゆる悪相のもの」の義なり。

第四十二行の缺所以下は közüñä kalıp orlatır trk trk にして「姿を現はし來り、惑亂し、速やかに」なり。

第四十三行の缺所は aın「月」にて「年に月に」なり。

第四十五行の ikitigä は ikintigä「第二に」なり。

第四十九行のari は ät'özlari「其の身は」なり。

第五十行の缺文は ädrämi bu titir, kim qayu にして「善行の功徳なり若し各人」なり。

第五十二行の kövänännig は kövänélig の誤なり。

第五十三行の ölätsär を「生ずる時」と譯せしは、此の原義よりして、更にす
みて、「惑亂せば」と譯すべし。

第六十一行の yoquru を「積む」と譯せしは「担る」の誤譯なれば訂正す。

第六十六行の başı 以下は başı kün ärkligi ai ärkligi yıl ärkligi üzüt yäk ärkligi süü başı-lar ärkligi qasınçy xorqıneçy ärkligär at-ları (bu) ätür と見ゆ、これによれば「日王、月王、風王、鬼魔王、軍帥王等強盛なる恐るべき諸王の名はこれなり」との意にして、次の日遊、月殺等の名の説明の爲に記述せる句なるか如し。

第九十一行の äng を「其の」と譯せしは「最」の誤りにて「最後」にの誤譯なれば訂正す。

第二百九十三行以下の八菩薩の名につきて、伯林の版本と相合せざるものあり、伯林のには八菩薩の像を畫き其の第二のものに ratnangkir 菩薩の名を付せり思ふにこれ漢文に第二の菩薩名として見ゆる羅憐竭菩薩に相等するものなるべし、而して此の本の第二百九十八行に見ゆる菩薩名をさきには atangz(?) と讀みしが、思ふにこれもまた (ratn(a)nk(i)r と讀むべきなるべし。

前號誤植訂正

第二百十二行 anēa の次に munēa なる語を脱す。

第二百六十九行 tsuliny は tsuliy の誤り。

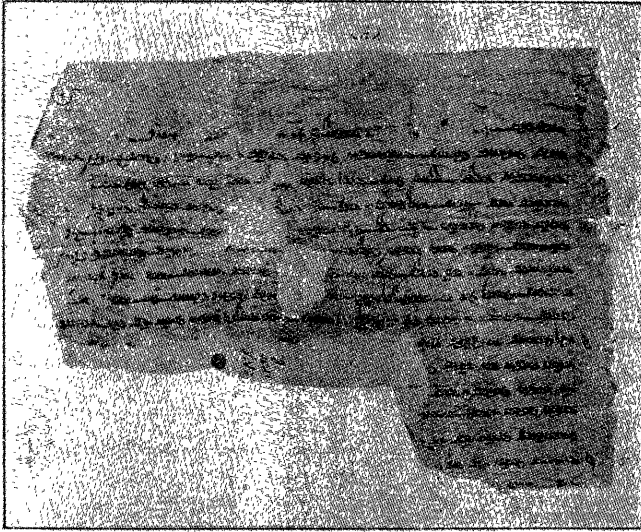
第二百八十二行 (47)sabaq は (60)sabaq の誤り。

第三百十七行 alqıdeu-gatagı は alqıñçuqa-tägi の誤り。

第三百九十二行 saqınsär は saqınsar の誤り。

回鶻文天地八陽神呪首經卷

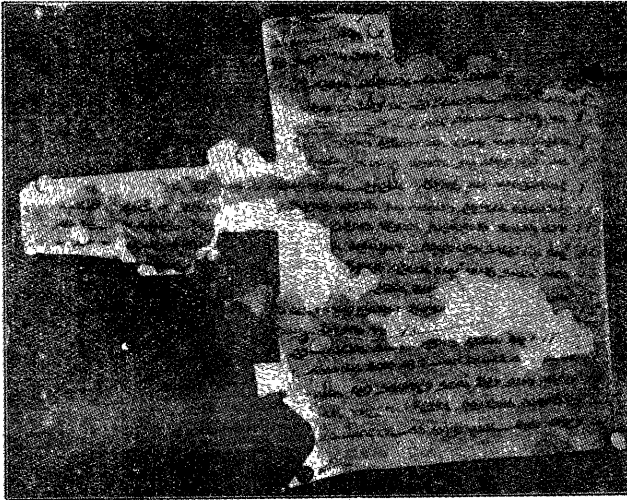
露西亞學士院所藏



回鶻文の天地八陽神呪經補遺

回鶻文天地八陽神呪經斷片

大谷氏所藏



第五卷 (四〇七)